令和４年度　授業改善推進プラン

教科（　社会　）　　学年（　１学年　）

学力調査・アンケート等の課題分析

第１回定期考査（6 月実施）において達成率 50%未満の生徒が 10 名（22.7%）、達成率 50%～89%の生徒が 33 名（75%）、達成率 90%以上の生徒が１名である。7 月実施の授業アンケートによれば、授業に積極的に取り組んでいるという問いに肯定的回答をした生徒は 91.4%であるが、「「わかった」「できた」と感じる機会がありわかりやすい」という問いに肯定的な回答をした生徒は 85.7%である。よって、課題分析を以下の通りとする。

・定期考査等の結果からわかる、基礎的な学力の定着度（達成率）を向上させる。

・積極的に授業に取り組む生徒が「わかる、できる」実感を持つことができる授業を行う。

授業等の課題分析

多くの生徒が地理的分野・歴史的分野の内容のいずれにも興味をもち授業に参加している。資料からわかることを読み取り、表現（記述や発表）する課題においては、気付くことがあるが表現の仕方に迷い、記述や発表ができない（言いかたがわからない）生徒も多い。また、学習習慣が定着しておらず、定期考査前に勉強不足の焦りや不安を訴える生徒も複数見られた。

目指す授業

社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を育成する授業。

授業改善のための具体的な方策

生徒の知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度をバランスよく強化していくため、以下の方策を実施する。

・画像や映像などの資料を活用したり、デジタル教科書を活用したりしながら、さまざまな資料分析を行い、わかったことを説明・表現する練習を積み重ねる。

・表現の仕方に迷う生徒のために、教科書等の文章を参考にしたり、生徒同士の学び合いをしたりできるような時間を設定する。

・授業の振り返りを充実させ、毎時間の授業で何がわかったか思考する時間を設定する。

令和４年度　授業改善推進プラン

教科（　　社会　　）　　学年（　２学年　）

学力調査・アンケート等の課題分析

授業アンケートの結果について、同クラスの１年次（昨年度）と２年次（今年度）を比較すると、「授業はわかった、できたと感じる機会がありわかりやすい」という問いに否定的な回答をする生徒は２名から４名に増加した。一方、「授業で学ぶ楽しさを感じる」という問いに否定的な回答をする生徒は５名から３名に減少した。学ぶ楽しさを感じる生徒が増加しているが、わかったという実感が持てない生徒が増加している。第１回定期考査結果からも、得点率が伸び悩み、学力の定着に課題のある生徒が多いことがわかる。

授業等の課題分析

授業の見通し・振り返りシートを毎時間記入する時間を設定しているが、面倒くさい、やりたくない等の理由で記入しない生徒が複数いる。学習に向かう姿勢や習慣が身に付いていないことや、生活リズムの乱れ等から授業内容に対する集中力を持続できない生徒もいる。一方、自身の学力を高めたいと考える生徒もおり、生徒の意欲を維持・向上させつつ、クラス全体の学習に向かう姿勢を高め、学力を向上させていくことが課題である。

目指す授業

社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を育成する授業。

授業改善のための具体的な方策

・生徒の理解と知識の定着を促すため、毎時間記述している振り返りシートについて、記述するだけでなく内容を発表するなどして理解を確実なものとする。
・他者に説明することを通じて自身の知識や思考力等を深めるため、学習内容に関するミニプレゼンテーションを行う。
・副教材を活用して問題演習を行い、得点力の強化を目指す。
・デジタル教科書や映像資料等を活用し、いろいろな視点から興味や関心を高めることができるようにする。

令和４年度　授業改善推進プラン

教科（　社会　）　　学年（　３学年　）

学力調査・アンケート等の課題分析

６月実施の領域診断問題では、50%以上の達成率の生徒が 14 名、そのうち 80%以上の達成率の生徒が 4 名である。半数以上の生徒が 50%未満の達成率であることから、1～2 年次の内容を含めた基本的な学習内容の定着を図る必要がある。7 月実施の授業アンケートでは、100%の生徒が「授業に積極的に取り組んでいる」という問いに「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答したが、同アンケートにおいて 16%（4 名）の生徒が「授業はわかった・できたと感じる機会があり、分かりやすい」という問いに否定的（「当てはまらない」「どちらかといえば当てはまらない」）回答をした。積極的に取り組むが十分な内容理解や満足に達していない生徒がいることがわかる。

授業等の課題分析

４月以降の授業内小テストでは多くの生徒が事前対策をして臨み、高得点を記録している。

習得した知識及び技能を活用して社会的事象について考察する学習（近代におけるアジアと日本の関係や、大正から昭和時代の文化についてまとめる等）においては、意欲的に活動に取り組み、活発な意見交換や発表が見られる一方で、課題に合った答え方をしていなかったり、検討する内容にずれ（課題の捉え違い）が生じていたりするなどの様子も複数の生徒に見られた。

目指す授業

社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を育成する授業。

授業改善のための具体的な方策

生徒の積極的な姿勢を維持しつつ、内容理解や達成感（わかる授業・できる自信）につながるような手立てが必要であるため、以下の方策を実践する。

- 課題に即した考え方ができるよう、スモールステップで課題を提示する。
- 検討する内容にずれが生じないよう、明確な問いかけを行い、問いを理解しているかどうかの確認も併せて行う。
- 生徒の学習活動の土台となる基礎的な知識や理解の向上を図るため、授業内の振り返りや復習を充実させる。（小テスト実施を含め、復習の機会を増やす）
- 自分の考えをまとめ、論述する機会を増やす。（話すこと・書くこと）